

銀漢亭日録

伊藤伊那男



9月10日(金) ▼農家の野菜買う。ピーマンの挽肉詰、谷中生姜の梅酢漬仕込む。十三時から角川「合評鼎談」。リモート。

11日(土) ▼ふと思いついて千葉、銚子へ。千葉は広い。錦糸町から特急で二時間近く。バスで犬吠崎へ。灯台から外川へ歩く。外川は「落つくし」の舞台。駅近くの「外川ミニ郷土資料館」を訪ねると館長の島田泰枝さんが外川と銚子の昔の繁栄を語ってくれる。八十六歳と。港町を二時間ほど散策する。博物館を開いている「メ印島長水産」に戻り、干物を家に送る。銚子電鉄で銚子の町に戻り、散策。飯沼観音を拝し、門前の「井屋七兵衛」で鯖のツケ丼。町は全く活気無く、シャッター通り。飲食店もほとんど無く、寂しさに驚く。結局コンビニでビールとつまみを買ってホテルへ。近くにラーメン店あったので、行ってみると早く消灯。コンビニでカップ麺とカップ酒。何とも淋しい銚子。駅前に猫が寝ている。

12日(日) ▼早々に立上。鈍行を乗り継いで流山を目指す。流山電鉄に乗る。千葉は広い。銚子から三時間かかった。「江戸屋うなぎ店」に入り、青鰻(天然鰻のこと)のうなぎ。濃厚な江戸の味。宿場町を見る。近藤勇捕縛の陣屋址。赤城神社。「一茶双樹記念館」は一茶と交流のあった「天晴本みりん」の秋元家の復元屋敷。一茶は五十数回訪ねてきた安息の地。市立博物館を見て、十八時過、帰宅。流山電鉄はとにかく弾む。

14日(火) ▼広渡敬雄著「俳句で巡る日本の樹木50選」の書評「俳

壇」十一月号に二頁分書く。作句。夜、「火の会」八人。

15日(水) ▼「信州伊那月俳句大会」の結果来る。大溝妙子さん、伊那市長賞。三澤恵子さん上伊那俳壇賞受賞。

16日(木) ▼俳人協会第二十八回「俳句大賞」最終選考(予選通過千句超から)。ハンバーグ作る。

17日(金) ▼「俳句でふてふエッセイ(現代俳句協会の分裂)」送る。調布市の「アカデミー愛とびあ」の公開講座の件で成城駅前の「上島珈琲店」で担当の宝田氏と打ち合わせ。来年毎月教室を開くことに。沖縄で買った麩でフーチャンプルー。鰹の刺身など。

18日(土) ▼角川「合評鼎談」の準備。今日は餃子百二十個ほど作る。孫に包ませる。

20日(月) ▼敬老の日だけれど留守番をしてくれと。皆各々出かけて犬のバナラと留守番。劇団四季の劇場が有明に移り、開場間近とて孫のちゃん稽古で忙しい。夜、近所のN家。仲間の誕生日祝と、ついでに小生の敬老の日祝いと。自由が丘のテツ君の店の料理をテイクアウト。

21日(火) ▼十時半、東武線東松山駅。伊那北会。松山城跡と吉見百穴へ。松山城跡散策。藪蚊多く難儀。吉見百穴は三十年振り位か。土産物店の大澤さんと話。百穴は大澤家の所有地と。川越に出て二軒ほど巡る。

22日(水) ▼十三時、リモートで角川「合評鼎談」。これで十二回終わる。残るは年間の総集編。かなり負担のある仕事だったので、あと駅前に数日前にできた居酒屋。ホッピーを注文した途端、拡声器を持ったおじさんが来て、恥を知れ! と叱られる。まだ緊急事態宣言下。

23日(木) ▼第六十三回「奥の細道」羽黒山全国俳句大会(出羽三山神社)の選句。角川「合評鼎談」の校正。

25日(土) ▼選句追い込み。劇団四季「ライオンキング」の劇場、有明の移転。二十六日が柿落として今日のゲネプロに怜輔出演と。

28日(火) ▼十四時、発行所。一斗さん「春耕」の乾さんと打ち合わせ。あと知り合いの店で小酌。

29日(水) ▼農家へ野菜仕入れ。彗星集書いて十一月号の原稿終了。「春耕」四十五周年特集墓目良雨論を書き上げる。到来の鮎十キログラム超か。一部切つてどうにか冷蔵庫へ納める。その一部だけで手巻き寿司パーティーできてしまう。

30日(木) ▼有明の四季劇場。怜ちゃん出演日にてライオンキング観劇。有明地区は鉄腕アトムの未来都市のよう。

10月1日(金) ▼台風接近。終日雨。「奥の細道」羽黒山全国俳句大会の子供の部二千句超の応募あり。十七句選。

2日(土) ▼午後、発行所。「神保町に銀漢亭があったころ」出版の打ち合わせ。武田、川島、柊原、戸矢、馬場氏。あと古書店など散策。「ランチョン」が開いていたのでビール。牡蠣フライ、牡蠣のコキール、牡蠣チャウダー。あと馴染の店覗く。

3日(日) ▼午前中、「銀漢」十一月号の校正作業に没頭。

4日(月) ▼角川「合評鼎談」の総仕上げ。一年間のベスト三十句の選。読者欄ベスト三十句も。

5日(火) ▼高速バスにて富士吉田。高部務氏の出迎えを受ける。「手打ちうどん麵工房一樹」という吉田うどんの店にて昼食。馬肉、キャベツ、煮ごぼうなど入った腰の強いうどん。別荘の別棟で一人の時間。夜、「しゃぶしゃぶはやし」で豚しゃぶ。戻って暖炉

の炎を見ながら小酌。静かな夜を楽しむ。

6日(水) ▼快晴。空気の味が違う。高部氏の作ってくれた朝食をベランダで食す。氏はゴルフに行き、私はベランダで書き物と作句など。昼、富士山麓の雑草二種ほど入手。鶏肉、白滝、ごぼうなども。夜、茸と鶏も肉のすき焼きなど。暖炉の炎を見て酒。二十二時就寝。夜の雨。

7日(木) ▼九時間ほど寝たか。清々しい朝。昨夜の茸のすき焼きの残りで丼。大月に出て、岩殿山へ登ろうとしたが、登山道崩落で通行止め。裏から廻る道があるが往復五時間かかるので断念。各停の中央線で帰る。怜輔君、十一歳の誕生日にて、伊勢「若柳」の網焼き用牛肉取り寄せて庭にてお祝いの会。夜、地震。

8日(金) ▼十時半、常磐線馬橋駅。伊那北会。流山電鉄で小金城趾を歩く。流山に出て先月私が歩いた、一茶、近藤勇関係の旧蹟を案内。十六時半、「江戸屋うなぎ店」に入り、鰻肝、白焼で酒。最後うなぎ。

10日(日) ▼十一時半前、上田駅。喫茶店などで講演のおさらい。十二時、大輪寺にて「加舎白雄二三一回忌 全国俳句大会」。本堂で一時間少々、井月・曾良の信州の俳人二人について話す。政三さん、まほさんが飛び入りで聴きにきてくれる。十七時、「松茸村」というこの季節だけ開く山の中にある料理店「丸光園」に案内していただく。仲寒蟬さん、幹事の窪田英治さん他十数名。鍋、茶碗蒸、土瓶蒸、天ぷら、吸物。松茸ごはんはお土産にしてみよう。上田プラザホテルへ投宿。まだ二十時前にて駅前で小酌。作句など。一人の反省会。